

## NPO WBN 共催事業報告書

事業名：前橋工科大学-群馬福祉医療大学 共同研究プロジェクト  
第4回 前橋新適塾

開催日時：平成 28 年 1 月 23 日（土） 15:00～17:25 （交流会・情報交換会：17:30～19:30）

開催場所：前橋工科大学 1号館・151教室

参加者：230人

### 事業報告

新適塾塾頭・今村一之前橋工科大学副学長からの挨拶があった。平成 24 年 11 月 28 日に前橋工科大学と群馬医療福祉大学との間で教育研究の連携を締結したことを機に、平成 25 年 12 月 21 日に前橋新適塾のキックオフ・シンポジウムを開催した。今回で第4回を迎えることとなった。

はじめに、「TMSによるヒト随意運動メカニズムの解明」講演が前橋工科大学システム生体工学科・小田垣雅人氏によりなされた。TMSとはTranscranial Magnetic Stimulation（経頭蓋磁気刺激法）の略称で頭蓋上から磁気を当てて脳内の変化を調べ、脳への刺激とそれによる活動部位の関係から、磁気と脳活動の関連を研究する手法との説明があった。その後、小田垣研究室にて行われている研究内容と得られた知見が紹介された。脳内への磁気的作用について、これまで漠然とした効果が云われてきたが、本講演により定量的な議論への



の道程が示された。

続いて角田病院リハビリテーション科・荒木海人氏による「臨床による HAL の運用報告」講演がなされた。HALは介護用人体装着型支援器具として Cyber-Dyne 社が製作している Hybrid Assistive Limb の通称製品名である。角田病院ではこれを利用したリハビリテーションを実施しており、介護効果が上がっているとの報告が事例で紹介された。



10 分間の休憩後、プロジェクトの基調講演として「新しいものを生み出す凡人の知恵」が有限会社ヒューマンリンク代表取締役・田上勝俊氏によりなされた。氏は、本田技研工業株式会社、前基礎研究所所長・常務取締役として同社ロボット「アシモ」の開発責任者として研究を指導し、自動車に限定されない先端技術を同社にもたらした。この技術は最近における同社の介護ロボット開発参入への道



を開いたものである。そのような道程を本田社内で実行できた基本的考え方が披露された。これが，“凡人が（本田宗一郎と云う）天才に向かい合う知恵”であると、特に学生に向けて熱く語った。

次いで、「小脳性運動失調に対する病態解釈に基づいたリハビリテーションの試み」と題して、脳血管研究所美原記念病院神経難病リハビリテーション科・菊地豊氏の講演がなされた。小脳の損傷を原因とした運動失調を同定し、その知見によるリハビリテーションの効果について興味深い知見を開示した。



プロジェクト講演終了後、前橋工科大学メイビットホールにおいて「交流会・情報交換会」が開催された。星和彦前橋工科大学学長の挨拶の後、事業共催団体 NPO 法人バイオフィォーラム及び NPO 法人ワイヤレスブレインネットワークの両理事長からの挨拶、乾杯発声があり、群馬医療福祉大学及び前橋工科大学の多くの学生を交えて楽しい交流会となった。また、前橋工科大学管弦楽部による演奏があった。なお、NPO WBN 会員土屋氏は田上氏と仕事上の知古とのことであり、今回の事業実施に当たり田上氏への基調講演依頼に尽力した。

